

大学等名	東京未来大学
プログラム名	東京未来大学リテラシープログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

プログラムを構成する授業科目「データサイエンス基礎」(2単位)を修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「データサイエンス基礎」(1回目、12回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「データサイエンス基礎」(1回目、12回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データサイエンス基礎」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「データサイエンス基礎」(1回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス基礎」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(1回目、14回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「データサイエンス基礎」(1回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データサイエンス基礎」(1回目) ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「データサイエンス基礎」(1回目、12～13回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス基礎」(2回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「データサイエンス基礎」(2回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データサイエンス基礎」(2回目、11回～13回目) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション)「データサイエンス基礎」(2回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス基礎」(2回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス基礎」(1回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス基礎」(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス基礎」(1回目、9～10回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「データサイエンス基礎」(2回目、5～6回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「データサイエンス基礎」(9～10回目) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データサイエンス基礎」(4回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス基礎」(12回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(1回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス基礎」(1回目) ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「データサイエンス基礎」(2回～3回目、12回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工)「データサイエンス基礎」(4回目) ・探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案「データサイエンス基礎」(4回目) ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」(2回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題 (ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス基礎」(3回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス基礎」(3回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス基礎」(3回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データサイエンス基礎」(3回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「データサイエンス基礎」(3回目) ・AIサービスの責任論「データサイエンス基礎」(3回目) ・データガバナンス「データサイエンス基礎」(3回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(1回目、3回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「データサイエンス基礎」(1回目、3回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データサイエンス基礎」(3回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「データサイエンス基礎」(3回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(3回目) ・サイバーセキュリティ「データサイエンス基礎」(3回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス基礎」(2回目、7回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス基礎」(7回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「データサイエンス基礎」(7回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データサイエンス基礎」(8回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンス基礎」(7回目、8回目) ・観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス基礎」(8回目) ・打ち切りや欠測を含むデータ、層別の必要なデータ「データサイエンス基礎」(2回目) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「データサイエンス基礎」(7回目) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データサイエンス基礎」(5~6回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データサイエンス基礎」(7回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「データサイエンス基礎」(4~6回目) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データサイエンス基礎」(5~6回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データサイエンス基礎」(4~6回目) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データサイエンス基礎」(4~6回目、14回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「データサイエンス基礎」(4~6回目、14回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「データサイエンス基礎」(2回目、5回目、7回目) ・データの集計(和、平均)「データサイエンス基礎」(2回目、5回目、7~8回目) ・データの並び替え、ランキング「データサイエンス基礎」(2回目、5回目、7~8回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「データサイエンス基礎」(2回目、5~6回目) ・表形式のデータ(csv)「データサイエンス基礎」(2回目、5~6回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

--

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 397人 女性 1142人 (合計 1539人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
こども心理学部	1,249	280	1,120	1	1											1	0%
モチベーション行動科学部	290	60	240	7	5											7	3%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	1,539	340	1,360	8	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 情報教育センターでは、本学における教育及び学術研究に係る情報ネットワークシステムの効率的活用に関する事項、情報教育システムの構築及び管理運用に関する事項、東京未来大学リテラシープログラム(以下「プログラム」という)の実施体制に関する事項、学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関する事項、プログラムについての自己点検・評価に関する事項、その他情報教育・プログラムの実施に際し必要な事項などを所管している。特に、本件(データサイエンス・AI基礎)については、全学的なリテラシー科目のカリキュラム編成の提案、普及促進、情報リテラシー教育の質保証に向けた検討を行っている。

- ⑦ 具体的な構成員
- 【情報教育センター】

<委員>

モチベーション行動科学部 教授 杉本 雅彦(センター長)

モチベーション行動科学部 講師 岩崎 智史

こども心理学部 講師 紙本 裕一

モチベーション行動科学部 特任講師 木川 明彦

<オブザーバー>

エンrollment・マネジメント局 大磯 貴晃

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	1%	令和7年度予定	4%	令和8年度予定	10%
令和9年度予定	25%	令和10年度予定	50%	収容定員(名)	1,360

具体的な計画

令和6年度よりデータサイエンス科目群の基幹科目としてこれから更に必要となる知識と技術を学び、それを活用する基礎的な能力を獲得することを目的とし、「データサイエンス基礎」を開講した。本科目は全学部・全学科の1年次学生から秋学期に受講できる選択科目であるため、新1年生向けガイダンス等で周知を行い、認知度向上と履修希望者数増を図っている。また、ホームページ等を活用した広報活動も予定している。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「データサイエンス基礎」は、大学共通科目として開講しているため、全学部の学生が履修可能である。今後は、学生が受講しやすい時間帯に開講する等で履修者を増やしていくことを予定している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本学では、毎年度、全学生に対し履修に関するガイダンスを行い、卒業要件だけでなく、各種資格課程についての履修方法についても、周知を行ってきた。「データサイエンス基礎」に関して、新1年生向けのガイダンスにて説明を実施し、「プログラム」の周知を行っている。また、本学のウェブサイトや学習管理システム(LMS)を通じて、本プログラムに関する情報を掲載するとともに、適宜情報発信をしている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

PC使用が前提と科目であるが、本学では入学時に学生1人1台にPCを配布しているため、学修形式は対応している。また、忘れてしまった学生に対しても図書館や事務室で貸出の用意をしておき、学生のPCサポートを行っている。

授業で使用した資料・データはLMSに保管し、いつでも学生が閲覧可能な環境を用意している。

また、授業に関する質問・相談等は授業前後の時間だけでなく随時メールで受け付けており、学生サポートの体制を構築している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オフィスアワー制度を設けて、担当教員が各種質問に回答する体制が整備されている。対面のみでなく、メールでの個別対応も行っているため、時間や場所の制約なしに質問を受け付けることが出来るため、今後も同様の仕組みを継続したい。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

東京未来大学情報教育センター

(責任者名) 杉本 雅彦

(役職名) センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	2024年度における本教育プログラムの履修者数は、こども心理学部1人、モチベーション行動科学部7人であった。履修者における単位修得は6人である。履修者における単位修得率の割合は75%である。教務委員会を通じて、各学部ごとにおける単位修得状況を管理し、情報教育センターで確認している。今年度は、1年生のみを対象科目としていたため、少ない人数であった。次年度は対象が1・2年生となるので、受講者人数は増加するものと予想される。
学修成果	シラバスで科目のテーマと到達目標を明示しており、授業の内容に関連した課題やレポートやプレゼンテーション等を課すことで、学生の理解度を図りながら到達目標を達成できるよう取り組んでいる。プログラムの学修成果は、教務委員会を通じて単位修得率及び平均GPA並びに成績分布状況を確認することで点検・評価が可能である。これらの結果を基にして情報教育センターと科目担当教員との話し合いを通じて、学修成果の評価・改善を行っている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	履修後の授業評価アンケートの質問項目「あなたは、授業中に関心をもった内容について深く考えましたか。」において、8名からの回答の平均が約3.9であった(「そう思う」が5、「ややそう思う」が4、「どちらともいえない」が3、「あまりそう思わない」が2、「そう思わない」が1)。平均点が約3.9であることから、全体として受講者の満足度は「ややそう思う」に傾向が見られたと言える。受講者が授業内容について深く考えられたということは、授業の構成や説明が理解しやすく、思考を深めるための適切な情報や刺激が提供されていたことを示唆している。今後は、授業内容の具体例を増やしたり、より多様な意見交換の機会を設けることで、より多くの受講者が深い思考を促せるような工夫ができて得ると考えられる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	履修後の授業評価アンケートの質問項目「あなたは、この授業を受けたことがない人に薦めたいと思いますか。」において、8名からの回答の平均が約3.1(「そう思う」が5、「ややそう思う」が4、「どちらともいえない」が3、「あまりそう思わない」が2、「そう思わない」が1)。平均点が約3.1であることから、全体として「どちらともいえない」に傾向が見られたといえる。平均点が3程度であるため、授業の目的や到達目標を明確に伝え、受講者が授業を通して何を得られるのかを理解できるように周知することが課題として考えられる。また、受講者に対しては、受講者同士の交流を促進する機会をより積極的に設けることで、学習効果を高め、授業への満足度向上に繋げていきたい。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	1年次より履修可能な選択科目として新規に開講された科目であり、計画段階では履修希望者数の予測が難しかったが、結果として8名の受講希望者がおり科目開講を行った。履修後の授業評価アンケートの質問項目「教員は、具体例を挙げる、まとめを行うなどの工夫をし、わかりやすく説明していたと思いますか。」について、平均が約3.6(「そう思う」が5、「ややそう思う」が4、「どちらともいえない」が3、「あまりそう思わない」が2、「そう思わない」が1)という結果であり、多くの学生が教員の説明をわかりやすいと感じていると考えられる。履修後の授業評価アンケートの質問項目「準備されていた教材(配布資料、動画、スライドなど)は十分だったと思いますか。」について、平均が約4.8(「そう思う」が5、「ややそう思う」が4、「どちらともいえない」が3、「あまりそう思わない」が2、「そう思わない」が1)という結果だったことから、用意された教材は十分な量であったと考えられる。その一方で、他の学生への推奨が約3.1点(「どちらともいえない」との結果であることから、より積極的に他の科目との関連や実社会でのニーズといった事例を交えて学生に周知を行い、シラバスだけでなく、授業内容や魅力を具体的に伝えていくことで、履修率の向上を図りたい。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	「データサイエンス基礎」は令和6年度より1年次より履修可能な選択科目として新規に開講された為、本科目を履修、単位を修得して卒業した学生はまだいない。本プログラムは1年目であることと、リテラシーレベルであるため、修了者の進路先での活躍状況、企業等での評価は得られていない。本学では毎年、卒業生と就職先にアンケートを実施している。今後、本プログラムの成果を評価する項目を追加することを検討する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムは実施したばかりであり、また調査が不十分の段階にある。修了者の進路・活躍状況・企業等の評価はいずれも未確定の状況にある。修了者、実習先や採用企業等へのヒアリングが必要と思われるが、まだ検討段階である。一般企業、保育士、小学校・中学校の現場に即応できるようなプログラム内容となるよう、本プログラム修了生の就職先を主とした関係各所から本プログラムに対する要望等をヒアリングする準備を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	履修後の授業評価アンケートの質問項目「あなたは、この授業の内容について身についたと思いますか。」において、8名からの回答の平均が約3.6(「そう思う」が5、「ややそう思う」が4、「どちらともいえない」が3、「あまりそう思わない」が2、「そう思わない」が1)となった。数値自体については概ね、良好な評価が得られていると考えられる。この結果を踏まえて、授業開始時に、具体的な学習目標を提示し、学生が何を習得すべきかを明確にすることや各回の授業で、その日の学習目標を再確認し、目標達成に向けた学習を促すことなどが課題として挙げられる。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	履修後の授業評価アンケートの質問項目「授業の難しさ・易しさ」についての回答項目は平均が約4.5(「難しい」が5、「やや難しい」が4、「ちょうどよい」が3、「やや易しい」が2、「易しい」が1)となった。この結果からも推定されるように、授業で扱う内容が難しいと学生には感じられていたことが背景にあったと考えられる。このような状況を改善するためには、社会の変化や私生活に溶け込んでいる技術をテーマにあげて指導内容の平易化や、学生にとって馴染みやすい(理解しやすい)ことを意識する必要があると考える。

講義情報	
講義名:	データサイエンス基礎
教員:	木川 明彦
単位:	2
学部:	
カテゴリ:	

開講情報	
キャンパス:	
開講時期:	秋学期
開講学年:	
昼夜区分:	
曜日・時限:	火曜 1時限

科目番号(科目ナンバリング)

XARB101A

授業のテーマと目標

【授業のテーマ】

本科目は、こども心理学部、モチベーション行動科学部の1年次の学生を対象とした一般教養科目です。文系の情報科学の初学者でも理解できるよう、具体例を用いながら「AIやデータサイエンスがもたらす価値」、「デジタル技術が行き渡った社会における課題」を学び、昨今のデータサイエンスの意義と目的、手法についての理解を深め、数理・データサイエンス・AI教育の導入として、基礎的素養を身に着けます。

【授業の目標】

- データ・AIの活用領域の広がりとそれらを活用する価値を理解する。
- データ・AI利活用の際に留意すべきモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスクについて理解する。
- 基本的な統計概念を理解し、データの種類の伴った分析方法が提示できる。
- データに基づいた課題解決能力が身に付き、解決策が提示できる。

卒業・学位授与方針(ディプロマポリシー(DP))との関係

DP-M2:他者と関わる力を身につけること。

DP-M3:組織を動かす力を身につけること。

身につけるべき学士力

【C: 情報収集-分析-解釈-表現-発信する力(課題を解決する力)】

- C-5.問題を発見し、必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。
- C-6.獲得した知識・技能を総合的に活用し、課題に適用し、解決できる。
- C-7.情報を構造化し、分析・評価・統合し、倫理的に活用できる。

【D: 想像し表現する力(想像力)】

- D-9.情報や知識を多角的・論理的に分析し、表現できる。

【H: 心理学の知識技能・技能を理解する力】

- H-21.統計的なデータを読み取り、科学的根拠を用いて説明できる。

【M: 他者とかかわる力】

- M-50.自分の関わる企業・組織や市場の情報を収集することができる。
- M-51.他者に情報を適切に伝達する素材をつくることことができる。

授業の内容と計画

第1回: データサイエンス入門

- データサイエンスの基本概念、歴史、現代社会での重要性
- 応用分野の紹介

第2回: データの収集と処理

- 様々なデータ収集方法
- データソース、データ変換、データクレンジングの基本

第3回: データサイエンスの倫理

- データプライバシーの重要性
- バイアス、公平性、透明性の基本

第4回: データの探索的分析(EDA)

- データの可視化技術
- 基本的なデータ分析手法

第5回: プログラミング操作(基礎)

- Python言語の基本
- データ分析におけるPythonの使用

第6回: プログラミング操作(応用)

- データベースの活用
- Pythonによるデータ可視化

第7回: 統計学の基礎(基礎)

- 統計学の重要性と基本用語
- 記述統計、推測統計の基礎

第8回: 統計学の基礎(応用)

- 確率論の基礎
- 確率分布の種類と特性

第9回: 回帰分析(基礎)

- 単回帰、重回帰分析
- 回帰モデルの評価方法

第10回: 回帰分析(応用)

- 決定木、クラスタリングの基本
- 分類アルゴリズムの評価

第11回: 時系列データ分析

- 時系列データの特性
- 時系列分析の基本手法

第12回: ビッグデータとデータマイニング

- ビッグデータの問題
- データマイニング技術の基礎

第13回: 機械学習の基礎

- 教師あり学習と教師なし学習の違い
- ニューラルネットワークとディープラーニングの基礎

第14回: データサイエンスプロジェクトとまとめ

- 実際のデータセットを用いたプロジェクトの実施

- ・プロジェクト発表とフィードバック

※上記の計画は授業の進行状況をみて変更する場合があります。

※使用するアプリケーションは受講生の状態をみて変更する場合があります。

事前学習・事後学習

授業以外に以下の事前・事後学習が必要です。()内は目安の時間です。

<事前学習>

授業で指定した課題に取り組んでもらいます。(2時間)

<事後学習>

授業で出題された課題に関する情報調査や各授業の復習に取り組んでもらいます。(2時間30分)

アクティブラーニングの実施

授業によっては発言を求めたり、反転学習を実施したりする予定です。

ICTの活用

- ・ PC 教室又は必携PCを使用し、データ検索や処理などを行います
- ・ レポート作成にコンピュータ及びオフィスツールを使用します
- ・ プログラミング言語Pythonを使用し、簡単なデータ処理を行います
- ・ コンピュータやプロジェクターなどを活用して、資料の提示や共有を行います
- ・ 授業で使用した資料・データをCoIsに保管し、自由に取り出せるようにします

実務経験を生かした授業の実施

特になし。

成績評価方法と基準

<評価基準>

S: 到達目標を完全に達成している

A: 到達目標をほぼ完全に達成している

B: 到達目標を十分に達成している

C: 到達目標を達成している

E・F: 到達目標を達成していない

<評価方法>

基準に達しているか否かは以下の方法で判断する。

- ・ 授業への参加度 40%
- ・ レポート課題 30%
- ・ プレゼンテーション課題 30%

試験・課題に対するフィードバック方法

提出された課題の補足解説や講評を授業内に行います。

学生へのメッセージ

本授業は演習を伴う講義形式での実施となります。必要に応じて、グループワークやPCを用いた演習を行います。

PCの操作能力については、基本的な理解があり、とりわけMicrosoft Excelの操作ができることが望ましいです(初学者でも問題はない)。

注意事項として授業開始から20分以上の遅刻は欠席扱いとします。また20分以内の遅刻3回で欠席1回と扱いとしますのでご承知おきください。

オフィスアワー

授業に関する質問相談などは授業前後の時間やメールにて受け付けます。

教科書・参考書

教科書: 特になし。

参考書: 必要に応じて教員側から提示する。

その他

PRINT

POWERED BY
INTERLECT **ocampus 3**

Campus Guide 2024

3

履修の手引き

3-1. 全学共通事項 51

1. 履修登録に関する事項 56
2. 単位制度について 58
3. 授業に関する事項 62
4. 試験に関する事項 66
5. 成績評価に関する事項 68
6. 担任教員およびCAによるサポート体制 70

3.2. こども心理学部 71

1. こども心理学部の教育 72
2. こども心理学科 心理専攻 75
3. こども心理学科 こども保育・教育専攻 83
4. 卒業研究科目に関する事項
[心理専攻、こども保育・教育専攻 共通] 95

3.3. モチベーション行動科学部 97

1. モチベーション行動科学部の教育 98
2. 教育課程に関する事項 100
3. 卒業研究に関する事項 112

3 履修の手引き

3-2. こども心理学部

1. こども心理学部の教育	72	3. こども心理学科 こども保育・教育専攻	83
(1) こども心理学部の教育の目的	72	(1) こども保育・教育専攻の教育の目的	83
(2) 卒業・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	72	(2) 卒業・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	83
(3) 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	73	(3) 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	83
(4) カリキュラム編成	74	(4) こども保育・教育専攻の2つの履修モデル	83
2. こども心理学科 心理専攻	75	(5) こども保育・教育専攻 履修科目一覧	84
(1) 心理専攻の教育の目的	75	(6) 履修等に関わる各要件	92
(2) 卒業・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	75	(7) 2年次から3年次への進級要件	94
(3) 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	75	(8) 履修登録制限	94
(4) 心理専攻 履修科目一覧	76	(9) 春学期卒業	94
(5) 履修等に関わる各要件	80	(10) 卒業延期	94
(6) 2年次から3年次への進級要件	82	4. 卒業研究科目に関する事項 [心理専攻、こども保育・教育専攻 共通]	95
(7) 履修登録制限	82	(1) 卒業研究科目について	95
(8) 春学期卒業	82	(2) 「こども心理演習Ⅰ・Ⅱ」、 「こども保育・教育演習Ⅰ・Ⅱ」の履修	95
(9) 卒業延期	82	(3) 「卒業研究・卒業論文」の着手条件	95
		(4) 「卒業研究・卒業論文」の評価	95

(4) 心理専攻 履修科目一覧

単位修得状況の確認

■単位を修得した科目はチェック欄の□を塗りつぶしましょう。

■必修科目の単位を修得しているかを必ず確認しましょう。

※開講時期(春学期・秋学期)は年度によって変更になる場合があります。

※一般教育科目について、春学期(夏期)、秋学期(冬期)に追加で集中講義として開講される場合があります。詳細は履修登録要項を確認してください。

① 一般教育科目

科目区分	授業科目の名称	開講年次				学期		単位数	授業形態					卒業要件	認定心理士	公認心理師	社会福祉士	チェック	備考
		1年	2年	3年	4年	春	秋		必修	選択	講義	演習	実験						
教養科目群	生命科学	1				春	秋	2	○										
	化学	1				春		2	○										
	数学	1					秋	2	○										
	物理学	1				春		2	○										
	脳科学	1				春	秋	2	○										
	天文学	1				春	秋	2	○										
	哲学	1				春		2	○										
	歴史学	1				春		2	○										
	言語学	1				春		2	○										
	宗教学	1					秋	2	○										
	文化人類学	1					秋	2	○										
	文学	1					秋	2	○										
	経営学	1				春		2	○										
	政治学(国際政治を含む)	1				春		2	○										
	社会学	1				春		2	○										
経済学	1					秋	2	○											
法律学(国際法を含む)	1					秋	2	○							△				
会計学	1					秋	2	○											
スポーツ科目群	体育実技A	1				春		1					○						
	体育実技B	1				秋		1					○						
	レクリエーション論		2			春		2	○										
	体育理論		2			春		2	○										
	レクリエーション援助技術		2			秋		2	○										
情報処理科目群	情報科学概論	1				春		2	○										
	情報処理基礎Ⅰ(機器操作を含む)	1				春		2		○									
	情報処理基礎Ⅱ	1				秋		2		○									
	情報処理応用A		2			春		2		○									
	ワープロ総合演習		2			春		2		○									
	情報処理応用B		2			秋		2		○									
外国語科目群	英語Ⅰ	1				春		2		○									
	英語コミュニケーションⅠ	1				秋		2		○									
	リスニング	1				秋		2		○									
	英語Ⅱ		2			春		2		○									
	アカデミック・リーディング		2			春		2		○									
	中国語		2			春		2		○									
	フランス語		2			春		2		○									
	英語コミュニケーションⅡ		2			秋		2		○									
	アカデミック・リーディング&ライティング		2			秋		2		○									
	韓国語		2			秋		2		○									
	ドイツ語		2			秋		2		○									
	ビジネス英語			3		春		2		○									
	日本語・日本事情Ⅰ*	1				春		2		○									
	日本語・日本事情Ⅱ*	1				秋		2		○									
日本語・日本事情Ⅲ*		2			春		2		○										
憲法	日本国憲法	1				春		2	○										
数理*	データサイエンス基礎	1				秋		2	○										

※「日本語・日本事情Ⅰ～Ⅲ」は、英語を母語とする学生に対して「英語Ⅰ」「英語コミュニケーション」「リスニング」にかわる必修科目として開講する場合があります。

*数理データサイエンス科目群

(5) こども保育・教育専攻 履修科目一覧

幼保履修モデル 単位修得状況の確認

■単位を修得した科目はチェック欄の□をチェックしましょう。

※○は本学において資格免許取得上必修科目、△は資格免許取得上履修することが望ましい科目。

※開講学期（春学期・秋学期）は年度によって変更になる場合があります。

※一般教育科目について、春学期（夏期）、秋学期（冬期）に追加で集中講義として開講される場合があります。詳細は履修登録要項を確認してください。

① 一般教育科目

科目区分	授業科目の名称	開講年次				学期		単位数	授業形態					卒業要件	社会福祉主事	保育士	幼免一種	チェック	備考	
		1年	2年	3年	4年	春	秋		選択	講義	演習	実験	実習							実技
教養科目群	自然科学					春	秋	2	○								△	□		
	化学	1				春		2	○								△	□		
	物理学	1				春		2	○								△	□		
	天文学	1				春	秋	2	○								△	□		
	脳科学	1				春	秋	2	○								△	□		
	数学	1					秋	2	○								△	□		
	人文	哲学	1				春		2	○							△	□		
	歴史学	1				春		2	○								△	□		
	言語学	1				春		2	○								△	□		
	宗教学	1					秋	2	○								△	□		
	文化人類学	1					秋	2	○								△	□		
	文学	1					秋	2	○								△	□		
社会	経営学	1				春		2	○								△	□		
	政治学（国際政治を含む）	1				春		2	○								△	□		
	社会学	1				春		2	○								△	□		
	経済学	1					秋	2	○								△	□		
	法律学（国際法を含む）	1					秋	2	○						△		△	□		
	会計学	1					秋	2	○								△	□		
スポーツ	体育実技A	1				春		1						○			○	□		
	体育実技B	1				秋		1						○			△	□		
	レクリエーション論		2			春		2	○								△	□		
	体育理論		2			春		2	○								○	□		
	レクリエーション援助技術		2			秋		2	○								△	□		
情報処理	情報科学概論	1				春		2	○								○	□		
	情報処理基礎Ⅰ（機器操作を含む）	1				春		2		○							○	□		
	情報処理基礎Ⅱ	1				秋		2		○							△	□		
	ワープロ総合演習		2			春		2		○							△	□		
	情報処理応用A		2			春		2		○							△	□		
	情報処理応用B		2			秋		2		○							△	□		
外国語科目群	英語Ⅰ	1				春		2		○							○	□		
	英語コミュニケーションⅠ	1				秋		2		○							○	□		
	リスニング	1				秋		2		○							○	□		
	英語Ⅱ		2			春		2		○							△	□		
	アカデミック・リーディング		2			春		2		○								□		
	中国語		2			春		2		○							△	□		
	フランス語		2			春		2		○								□		
	英語コミュニケーションⅡ		2			秋		2		○							△	□		
	アカデミック・リーディング&ライティング		2			秋		2		○									□	
	韓国語		2			秋		2		○							△	□		
	ドイツ語		2			秋		2		○									□	
	ビジネス英語			3		春		2		○									□	
	日本語・日本事情Ⅰ*	1				春		2		○									□	
日本語・日本事情Ⅱ*	1				秋		2		○									□		
日本語・日本事情Ⅲ*		2			春		2		○									□		
憲法	日本国憲法	1				春		2	○								△	□		
数理*	データサイエンス基礎	1				秋		2	○									□		

*「日本語・日本事情Ⅰ～Ⅲ」は、英語を母語とする学生に対して「英語Ⅰ」「英語コミュニケーション」「リスニング」にかわる必修科目として開講する場合があります。

*数理データサイエンス科目群

小幼履修モデル 単位修得状況の確認

■単位を修得した科目はチェック欄の□をチェックしましょう。

※開講学期（春学期・秋学期）は年度によって変更になる場合があります。

※一般教育科目について、春学期（夏期）、秋学期（冬期）に追加で集中講義として開講される場合があります。詳細は履修登録要項を確認してください。

① 一般教育科目

科目区分	授業科目の名称	開講年次				学期		単位数	授業形態					卒業要件	社会福祉主事	幼免一種	小免一種	チェック	備考
		1年	2年	3年	4年	春	秋		必修	選択	講義	演習	実験						
教養科目群	生命科学	1				春	秋	2	○										
	化学	1				春		2	○										
	物理学	1				春		2	○										
	天文学	1				春	秋	2	○										
	脳科学	1				春	秋	2	○										
	数学	1					秋	2	○										
	哲学	1				春		2	○										
	歴史学	1				春		2	○										
	言語学	1				春		2	○										
	宗教学	1					秋	2	○										
	文化人類学	1					秋	2	○										
	文学	1					秋	2	○										
	経営学	1				春		2	○										
	政治学（国際政治を含む）	1				春		2	○										
	社会学	1				春		2	○										
経済学	1					秋	2	○											
法律学（国際法を含む）	1					秋	2	○						△					
会計学	1					秋	2	○											
スポーツ科目群	体育実技A	1				春		1					○			○	○	□	
	体育実技B	1					秋	1					○			△	△	□	
	レクリエーション論		2			春		2	○							△	△	□	
	体育理論		2			春		2	○							△	△	□	
	レクリエーション援助技術		2				秋	2	○									□	
情報処理科目群	情報科学概論	1				春		2	○									□	
	情報処理基礎Ⅰ（機器操作を含む）	1				春		2		○					○	○	□		
	情報処理基礎Ⅱ	1					秋	2		○							□		
	情報処理応用A		2			春		2		○							□		
	ワープロ総合演習		2			春		2		○							□		
	情報処理応用B		2				秋	2		○							□		
外国語科目群	英語Ⅰ	1				春		2		○						△	△	□	
	英語コミュニケーションⅠ	1					秋	2		○						△	△	□	
	リスニング	1					秋	2		○						△	△	□	
	英語Ⅱ		2			春		2		○						△	△	□	
	アカデミック・リーディング		2			春		2		○								□	
	中国語		2			春		2		○								□	
	フランス語		2			春		2		○								□	
	英語コミュニケーションⅡ		2				秋	2		○					△	△	□		
	アカデミック・リーディング&ライティング		2				秋	2		○								□	
	韓国語		2				秋	2		○								□	
	ドイツ語		2				秋	2		○								□	
	ビジネス英語			3		春		2		○								□	
	日本語・日本事情Ⅰ*	1				春		2		○								□	
	日本語・日本事情Ⅱ*	1					秋	2		○								□	
日本語・日本事情Ⅲ*		2			春		2		○								□		
憲法	日本国憲法	1				春		2	○						○	○	□		
数理*	データサイエンス基礎	1					秋	2	○								□		

※「日本語・日本事情Ⅰ～Ⅲ」は、英語を母語とする学生に対して「英語Ⅰ」「英語コミュニケーション」「リスニング」にかわる必修科目として開講する場合があります。

*数理データサイエンス科目群

3 履修の手引き

3-3. モチベーション行動科学部

1. モチベーション行動科学部の教育	98
(1) モチベーション行動科学部の教育の目的	98
(2) 卒業・学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	98
(3) 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	99
2. 教育課程に関する事項	100
(1) カリキュラム編成	100
(2) 学部の特色	101
(3) 履修科目一覧	102
(4) 履修等に関わる各要件	109
(5) 進級要件	111
(6) 履修登録制限	111
(7) 春学期卒業	111
(8) 卒業延期	111
3. 卒業研究に関する事項	112
(1) 卒業研究について	112
(2) 「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」の履修	112
(3) 「卒業研究」の着手条件	112
(4) 「卒業研究」の評価	112

(3) 履修科目一覧

単位修得状況の確認

■単位を修得した科目はチェック欄の□をチェックしましょう。

■学期ごとに成績通知表を確認し、卒業に必要な要件をどれだけ満たしているか、また、あと何単位、どの科目を履修しなければならないかを確認しましょう。

■必修科目の単位を修得しているかを必ず確認しましょう。

※開講時期(春学期・秋学期)は年度によって変更になる場合があります。

※一般教育科目について、春学期(夏期)、秋学期(冬期)に追加で集中講義として開講される場合があります。詳細は履修登録要項を確認してください。

① 一般教育科目

科目区分	授業科目の名称	開講年次				学期		単位数		授業形態					卒業要件	モテベシヨムマシヤ	教職課程	社会調査士	公認心理師	認定心理士	社会福祉主事	チェック	
		1年	2年	3年	4年	春	秋	必修	選択	講義	演習	実験	実習	実技									
教養科目群	生命科学	1				春	秋	2	○														□
	化学	1				春		2	○														□
	天文学	1				春	秋	2	○														□
	物理学	1				春		2	○														□
	数学	1					秋	2	○														□
	脳科学	1				春	秋	2	○														□
	哲学	1				春		2	○								中高						□
	言語学	1				春	春	2	○														□
	宗教学	1					秋	2	○								中高						□
	文化人類学	1					秋	2	○														□
	文学	1					秋	2	○														□
	歴史学 (モチベクラス)	2				春		2	○								中						□
	経営学	1				春		2	○														□
	政治学 (国際政治を含む)	(モチベクラス) 1				春		2	○								中高						□
社会学 (モチベクラス)	1					秋	2	○								中高					△	□	
経済学 (モチベクラス)	1					秋	2	○								中高					△	□	
法学 (国際法を含む)	(モチベクラス) 1					秋	2	○								中高					△	□	
会計学	1					秋	2	○														□	
スポーツ科目群	体育実技A	1				春		1						○									□
	体育実技B	1				秋		1						○									□
	レクリエーション論	2				春		2	○														□
	体育理論	2				春		2	○														□
	レクリエーション援助技術	2				秋		2	○														□
情報処理科目群	情報科学概論	1				春		2	○														□
	情報処理基礎 I (機器操作を含む)	1				春		2	○								中高					□	
	情報処理基礎 II	1				秋		2	○													□	
	情報処理応用 A	2				春		2	○													□	
	ワープロ総合演習	2				春		2	○													□	
情報処理応用 B	2				秋		2	○														□	

2. 教育課程に関する事項

科目区分	授業科目の名称	開講年次				学期		単位数		授業形態					卒業要件	モチベーションメジャー	教職課程	社会調査士	公認心理師	認定心理士	社会福祉士	チェック	
		1年	2年	3年	4年	春	秋	必修	選択	講義	演習	実験	実習	実技									
外国語科目群	英語 I	1				春		2		○					一般教育科目から合計28単位以上(自由2単位を含む) 8単位以上	中高							<input type="checkbox"/>
	英語コミュニケーション I	1				秋		2		○						中高							<input type="checkbox"/>
	リスニング	1				秋		2		○						中高							<input type="checkbox"/>
	英語 II		2			春		2		○						中高							<input type="checkbox"/>
	アカデミック・リーディング		2			春		2		○													<input type="checkbox"/>
	中国語		2			春		2		○													<input type="checkbox"/>
	フランス語		2			春		2		○													<input type="checkbox"/>
	アカデミック・リーディング&ライティング		2			秋		2		○													<input type="checkbox"/>
	英語コミュニケーション II		2			秋		2		○						中高							<input type="checkbox"/>
	韓国語		2			秋		2		○													<input type="checkbox"/>
	ドイツ語		2			秋		2		○													<input type="checkbox"/>
	ビジネス英語			3		春		2		○													<input type="checkbox"/>
	日本語・日本事情 I *		1			春		2		○													<input type="checkbox"/>
	日本語・日本事情 II *		1			秋		2		○													<input type="checkbox"/>
日本語・日本事情 III *			2		春		2		○												<input type="checkbox"/>		
憲法 日本国憲法		1			春		2		○					中高							<input type="checkbox"/>		
数理* データサイエンス基礎		1			秋		2		○												<input type="checkbox"/>		

※「日本語・日本事情 I～III」は、英語を母語とする学生に対して「英語 I」「英語コミュニケーション I」「リスニング」にかわる必修科目として開講する場合があります。
*数理データサイエンス科目群

東京未来大学情報教育センター規程

平成31年4月1日 制定

規程第113号

(趣旨)

第1条 この規程は、東京未来大学組織規程第14条第2項に基づき、東京未来大学情報教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、東京未来大学（以下「本学」という。）における情報ネットワークシステムを活用した教育及び学術研究の向上に資すること及びデータサイエンス・AI教育の推進に関する事項を審議することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学における教育及び学術研究に係る情報ネットワークシステムの効率的活用に関すること
- (2) 情報教育システムの構築及び管理運用に関すること
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「プログラム」という。）の実施体制に関すること
- (4) 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関すること
- (5) プログラムについての自己点検・評価に関すること
- (6) その他情報教育またはプログラムの実施に際し必要な事項に関すること

(構成)

第4条 センターは、次の各号の者をもって構成する。

- (1) センター長
 - (2) 専任教員の中から学長が指名する者若干名
 - (3) 学長が指名した者若干名
- 2 前項第2号及び第3号に掲げる構成員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(センター長)

第5条 センター長は、学長が指名する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第6条 センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、東京未来大学情報教育センター管理運営委員会（以下「委員会」という。）をおく。

- 2 委員会は、センターの構成員のほか、センター長が必要と認めた者をもって構成する。
- 3 前項の委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員長等)

第7条 委員長は、センター長をもってあてる。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長から指名された者がその職務を代行する。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第8条 委員会は委員の三分の二以上の出席をもって成立する。

2 議決は出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

なお、定足数には委任状も含むものとする。

3 委員長が必要と認めた場合には、第6条第2項に定める構成員以外の者を出席させることができる。

(審議事項)

第9条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項

(2) センターの業務計画の基本方針に関する事項

(3) センターを運用するにあたって必要となる教育組織との連携に関する事項

(4) センターの構成員に関する事項

(5) 東京未来大学情報通信設備利用細則等の制定又は改廃

(6) プログラムの教育及び研究に関する事項

(7) プログラムに係る教育プログラムの実施に関する事項

(8) その他センター長が必要と認めた事項

(事務)

第10条 委員会の事務は、エンロールメント・マネジメント局において行う。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行し、平成31年3月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

東京未来大学情報教育センター規程

平成31年4月1日 制定

規程第113号

(趣旨)

第1条 この規程は、東京未来大学組織規程第14条第2項に基づき、東京未来大学情報教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、東京未来大学（以下「本学」という。）における情報ネットワークシステムを活用した教育及び学術研究の向上に資すること及びデータサイエンス・AI教育の推進に関する事項を審議することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学における教育及び学術研究に係る情報ネットワークシステムの効率的活用に関すること
- (2) 情報教育システムの構築及び管理運用に関すること
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（以下「プログラム」という。）の実施体制に関すること
- (4) 学生に対するプログラムの履修を促す取り組みに関すること
- (5) プログラムについての自己点検・評価に関すること
- (6) その他情報教育またはプログラムの実施に際し必要な事項に関すること

(構成)

第4条 センターは、次の各号の者をもって構成する。

- (1) センター長
 - (2) 専任教員の中から学長が指名する者若干名
 - (3) 学長が指名した者若干名
- 2 前項第2号及び第3号に掲げる構成員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(センター長)

第5条 センター長は、学長が指名する。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会)

第6条 センターの管理運営に関する重要事項を審議するため、東京未来大学情報教育センター管理運営委員会（以下「委員会」という。）をおく。

- 2 委員会は、センターの構成員のほか、センター長が必要と認めた者をもって構成する。
- 3 前項の委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員長等)

第7条 委員長は、センター長をもってあてる。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長から指名された者がその職務を代行する。

3 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(会議)

第8条 委員会は委員の三分の二以上の出席をもって成立する。

2 議決は出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

なお、定足数には委任状も含むものとする。

3 委員長が必要と認めた場合には、第6条第2項に定める構成員以外の者を出席させることができる。

(審議事項)

第9条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項

(2) センターの業務計画の基本方針に関する事項

(3) センターを運用するにあたって必要となる教育組織との連携に関する事項

(4) センターの構成員に関する事項

(5) 東京未来大学情報通信設備利用細則等の制定又は改廃

(6) プログラムの教育及び研究に関する事項

(7) プログラムに係る教育プログラムの実施に関する事項

(8) その他センター長が必要と認めた事項

(事務)

第10条 委員会の事務は、エンロールメント・マネジメント局において行う。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行し、平成31年3月1日から適用する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	東京未来大学
教育プログラム名	東京未来大学リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和 6 年度

【概要】東京未来大学リテラシープログラム

東京未来大学リテラシープログラム

修了要件科目:「データサイエンス基礎」(2単位)

【目的】

高度ICT社会で求められるAI・データサイエンスの素養・基礎を身につける

【身につける能力】

①社会におけるデータ・AIの利活用を説明できる。②データの特徴を知り、適切な方法でデータを扱うことができる。③データを読みとり、説明することができる。④典型的なデータの基礎的な数理処理を扱うことができる。⑤データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。⑥データサイエンス・AIについて自ら学び活かす姿勢を身につける。

【特徴】

モデルカリキュラムに準じた内容を、一般教育科目として全学部の1年次生から履修可能(卒業要件に含まれる選択科目)。

東京未来大学リテラシープログラム運営体制

